

第1章 東京の都市戦略

- 1 東京の歩みと到達点、さらなる成熟のステージへ
- 2 都市戦略としての「10年後の東京」
- 3 10年後に向けた8つの目標

第1章 東京の都市戦略

1 東京の歩みと到達点、さらなる成熟のステージへ

(1) 成長を経て、成熟を遂げた都市・東京

(長い歴史と伝統の上に築かれた「東京」)

- 東京は、江戸開府以来 400 年の長い歴史と伝統の上に築かれた都市である。
- 世界最大の百万都市であった江戸には、モノトーンの美しい街並みが続き、水陸の流通ネットワークやリサイクルの仕組みなど、当時から成熟した都市システムが確立するとともに、治安維持から消防、教育、公共事業に至るまで、日常的な公共活動を、地域単位で専ら一般市民が担う、いわば自治のシステムがすでに存在していた。

(近代都市としての歩み)

- 明治に入り、「欧米に追いつき追い越せ」を国家目標に、東京は近代都市として 100 年以上の歴史を重ねてきたが、その道のりは決して平坦なものではなく、震災や戦災という未曾有の危機に遭遇し、その都度、不死鳥のように蘇り、奇跡的な復興を遂げてきた。
- 敗戦により焦土と化した我が国を、わずか半世紀の間に、世界第2位の経済大国にまで押し上げたのは、政治、行政、経済の諸機能が集中する東京を舞台に活動する都民や企業の努力と成果にほかならない。とりわけ、1964（昭和 39）年に開催されたアジアで初めてとなる東京オリンピックは、高度経済成長の起爆剤となり、東京のインフラ整備はこれを契機として飛躍的に進展した。
- また、日本の危機の本質が最も先鋭的に現れる首都東京は、成長から安定、成熟へと都市の発展段階を進んできた過程で、都市問題の象徴ともいえる大気汚染やごみの急増、道路の渋滞や鉄道の混雑、さらにはテロなど、様々な危機に直面し、常にぎりぎりの対応を迫られてきた。
- 東京は、こうした都市が抱える負の側面に果敢に挑み続け、近年では、ディーゼル車排出ガス規制により大気汚染を大幅に改善するとともに、世界に誇る高品質な水道水の供給や、地球温暖化対策においても、国や他都市を先導する取組を展開している。
- 他に類を見ない都市機能の集中・集積を競争力の源泉とし、正確無比の公共交通網や世界一安全な都市空間など、アジア初のグローバルプレーヤーたる日本の

首都東京は、世界を代表する成熟を遂げた大都市として、そのプレゼンスを確立してきた。

(2) さらに高いレベルの成熟へ

- 我が国は、今、物質的な豊かさを極めながらも、自らが依って立つ価値の基軸や新しい目標を見い出せず、都民、国民が将来に対する夢や希望を抱きにくくなっている。
- また、世界に目を転ずれば、地球温暖化の進行、頻発するテロ、文化や民族の違いに起因する地域間紛争など、混迷と対立に直面している。
- 都市の世紀を迎え、20 世紀の近代主義を超えた、「都市の力」による新しい文明秩序の創造が期待されるなか、人類共通の危機の様相が最も先鋭的に現れているのが大都市であり、大都市のあり方そのものが国の命運を左右し、地球の未来を決定する時代を私たちは生きている。
- 東京は日本の確かな再生と、世界の平和と繁栄を築いていくため、このまちをさらに成熟した都市に発展させ、都市と地球の未来を拓いていかなければならない。
- 世界の諸都市の「範」となるよう、東京をさらに高いレベルの成熟した都市としていくためには、次の3つの取組が必要である。
- 第1に、残された「20 世紀の負の遺産」を解消することである。そのためには、東京の最大の弱点である交通渋滞を、三環状道路等の整備によって克服していかなければならない。
- 第2に、より機能的で魅力的な東京の姿を明らかにすることである。渋滞解消によって生まれるゆとりを活用し、快適で利便性の高い都市生活を実現するとともに、誰もが街を楽しめるユニバーサルデザインのまちづくりを進めていく。
- 第3に、「美しい街、安全な街」を実現して東京の価値や信用力を高め、その貴重なレガシー（遺産）を次代に継承していくことである。水辺からの眺望を重視した景観形成を図ることや、東京の喫緊の課題である震災対策に集中的に取り組むことなどによって、これらを実現していく。
- 今後 10 年、東京は、都市に集積された様々なポテンシャルを新たに顕在化させることで、さらに高いレベルの成熟へと新たな一歩を踏み出す。

2 都市戦略としての「10年後の東京」

(1) 東京が世界に示す都市戦略

- 東京都は 2006（平成 18）年 8 月、2016 年に行われるオリンピック大会の国内立候補都市に選定された。
- 前回の五輪開催が東京のありさまを一変させたように、10 年後のオリンピック開催は、成熟を遂げた東京をさらに機能的で魅力的な都市につくり変える大きな契機となる。
- また、オリンピックを一過性のイベントに終わらせることなく、これを梃子として東京の自己変革をさらに進め、日本を変える大きな動きにつなげていくことが重要である。
- そのためには、東京が、今後 10 年にわたりどのような都市の姿を描きながら将来に向けて政策展開を進めていくのか、東京を舞台に活躍する人やそこで生活する人たちが将来展望を持てるビジョンが東京に期待されている。
- 「10 年後の東京」は、オリンピックが開催される 2016 年の東京の目指すべき姿と、それに向けた政策展開の方向性を示す「都市戦略」として策定した。
- また、東京が今後 10 年にわたって展開していく先進的な取組を 21 世紀の新しい都市モデルにまで高め、アジアをはじめとする全世界に発信していく。

(2) 「10 年後の東京」を貫く 3 つの視点

成熟した都市の新しいあり方を目指す「10 年後の東京」では、全体を貫く考え方として次の 3 つの視点を掲げることとした。

ア 最先端の科学技術力によって未来を切り拓く

- 人類の歴史は技術革新の歴史であり、過去のいかなる文明も、新しい技術体系を発見し体得することで進歩してきた。我が国もまた、戦後 60 年以上にわたり、軍事を媒介としない独自の技術革新を続けることで、現在の平和と繁栄を築いてきた。
- また、技術を現実社会に適応させる能力に秀でているのが日本人である。省エネ技術から最先端医療、ロボット、ユビキタスに至る幅広い分野で日本の技

が世界をリードしている。火山国の宿命でもある震災リスクに対し、世界最高水準のレベルにまで耐震技術を高めたのも、日本人の優れた適応能力によるものである。

- 日本が世界に誇るこうした先端技術を、日本文化に元来内在している独特の感性や美意識、ものづくりの伝統や遊びどころと融合させることによって、21世紀の新しい価値は創出される。
- 人材の集積と交流が盛んな大都市を舞台に、技術は様々な人間の手によって磨かれ、実用化されていく。人類が未来に向かって抱く文明社会の「夢」を東京から発信していく。

イ 東京から新たな人材育成システムのあり方を発信する

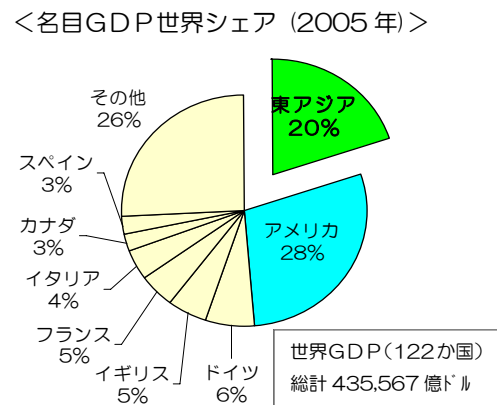
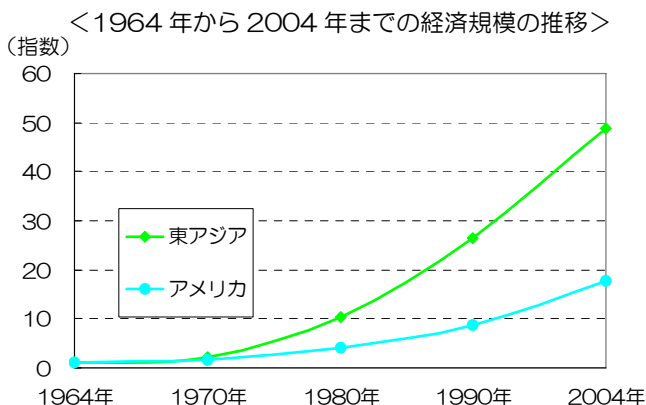
- いつの時代、いかなる社会においても、最も重要な社会資本は人材である。明治以来の日本の教育システムは、高度で均質な能力を持った大量の人材を養成し、日本の近代化の原動力となった。
- しかし今、日本の強みだった人材育成に揺らぎが見え始めている。世界のトップクラスを自認していた子どもの学力が低下傾向をみせ、学力格差拡大の懸念も広がっている。また、日本型雇用慣行が崩れ雇用の流動化が進み、専門性のある即戦力が求められている。さらには、大学院等で高度な専門能力を身に付ける者が増え、いわば学びの長期化が進んでいるなど、人生のあらゆる段階でキャリアアップが求められるようになっている。
- 日本にとって21世紀の重要な課題の1つは人材育成の再構築といっても過言ではない。これからは、多様な人材が社会で幅広く活躍するための様々な選択肢が用意されていることが重要である。教育、産業、観光、医療など幅広い分野のあらゆる段階でレベルアップを図りながら、いわゆる「複線型」の育成ルートを構築していく必要がある。
- 東京は企業、大学、研究機関などで働き、学ぶ多種多様な人材の集積地であり、このメリットを活かすことで、東京から新たな人材育成システムのあり方を提言・発信していく。

ウ 東アジア諸都市との連携・連帯を通じてダイナミックな発展を遂げる

- 東アジアは、今や世界で最もダイナミックに発展を続ける地域に変貌を遂げている。前回の東京オリンピックが開催された1964年と比較すれば、東ア

アジアの経済規模の伸びは、アメリカの18倍を遥かに越え50倍に拡大し、世界のGDPに占めるシェアも20%に達している。

- この東アジアが開かれた地域として連携を深めるとともに、東京がその中心となり、圧倒的なポテンシャルを十分に活かしていくことが、国際社会に新たな秩序を生み出し、世界に繁栄と平和をもたらす大きな契機となる。
- 例えば、産業分野における技術革新のダイナミズムを高めるためには、経済成長著しい東アジア諸都市との連携を活用して、そこから生み出される価値をより大きなものにしていくという視点が必要である。
- また、今後、経済活動の爆発的な拡大により、エネルギー・環境問題が先鋭化してくるアジア諸都市に対して、東京から先進的な環境政策を発信していくことは、地球の直面する持続可能性の危機を克服することにもつながる。
- 東アジアとの連携は経済的な分野だけにとどまるものではない。文化などのソフトパワーがますます重要視される21世紀には、文化や芸術、スポーツなどの国際交流を通じて相互理解を深めることが、アジアの紐帯をより強固なものとする。
- 特に未来を担う子どもたちの健全な成長は、全世界共通の願いである。東京はオリンピック招致を契機として、子どもとスポーツの良好な関係を再構築し、アジア地域をはじめとする世界の青少年がスポーツに接する様々な機会を創出していく。



(資料) 上記左は「国際比較統計」(財団法人 国際貿易投資研究所)等より作成、上記右は「世界経済の潮流」、「世界経済白書」(内閣府)等より作成
 (備考) 東アジアとは、日本、中国、韓国、台湾、シンガポール、マレーシア、インドネシア、タイ及びフィリピンをいう。また、上記左グラフの指数は、それぞれの1964年当時の名目GDPを1として指数化した。

3 10年後に向けた8つの目標

- 都市戦略を実効あるものとするため、10年後に向けた次の8つの目標を示し、今後の政策展開を図る。
- 1 水と緑の回廊で包まれた、美しいまち東京を復活させる
 - 東京の成長過程で失われた、水と緑に囲まれた都市空間を再生するとともに、美しい都市景観を創出し、東京の価値を更に高める。
 - 2 三環状道路により東京が生まれ変わる
 - 三環状道路の整備等により、東京の最大の弱点である渋滞を解消し、国際競争力を高めるとともに、交通インフラのゆとりを活かし、快適で利便性の高い都市を実現する。
 - 3 世界で最も環境負荷の少ない都市を実現する
 - 地球温暖化に代表される世界的な環境危機に対して、最先端の省エネルギー技術などを駆使して、世界で最も環境負荷の少ない都市を実現するとともに、その成果をアジアなど世界に発信・還元していく。
 - 4 災害に強い都市をつくり、首都東京の信用を高める
 - 東京の宿命的課題である震災対策に集中的に取り組むとともに、最先端技術によるテロ対策を進め、首都東京の国際的な評価や信用力を大幅に向上させ、危機に強い都市を将来に継承していく。
 - 5 世界に先駆けて超高齢社会の都市モデルを創造する
 - 世界に先駆けて超高齢社会を経験する東京で、活力ある高齢者像を新たに生み出すとともに、誰もが安心して暮らせる都市を実現する。
 - 6 都市の魅力や産業力で東京のプレゼンスを確立する
 - 伝統と最先端とが織り成す東京の魅力的な文化を発信するとともに、新たな産業を戦略的に育成し、東京の価値を高める。
 - 7 意欲ある誰もがチャレンジできる社会を創出する
 - 子どもたちに次代を担う力を身に付けさせ、東京でチャレンジしようとする意欲ある人々に多様な機会を提供するとともに、NPOやボランティアなど多様な活動主体が社会を担うシステムを構築する。
 - 8 スポーツを通じて次代を担う子どもたちに夢を与える
 - スポーツの振興を通じて競技力の向上と世界の子どもの健全育成に貢献し、生涯を健康的に過ごせる社会を実現する。

